

4. 都市の結びつき強化

・飛騨清見IC～白川郷ICの開通に合わせ、高速バスの運行経路が7月6日から変更となり、少なくとも既存ルートで一般国道156号を利用していた高速バスのうち、26便/日 が開通区間を利用しています。



高速バス路線・ダイヤ変更後の状況事例（金沢・高山線のケース）

東海北陸道の開通により、2往復から3往復へと1往復増便となり、その利用効果が高い。

開通前(H20.6.29～7.5)と開通後(H20.7.6～7.12)を比較すると利用者数は40%増となった。

北陸鉄道(株)自動車部からのコメント

NEXCO中日本調べ、曜日・季節による変動がある。

26便のうち、12便はH20.4に新たに運行を開始した路線で、飛騨清見IC～白川郷IC間の開通までは一般国道156号を利用していたもの。